

「インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 竹下涼

1. 学習成果

今回のスプリングスクールは、オンラインでの開催ということもあり、実際に海外に行くよりも気軽に参加できた。一度、オンライン上で海外に派遣されることで、実際に留学したいという思いが強くなるとともに、留学に対する心理的ハードルが低くなったように感じる。今回の派遣を通して、大学在学中に海外に長期滞在するという決意が固まり、また、スプリングスクール・サマースクール等の制度を使い、様々な国で海外経験を積みたいという思いが生まれた。

2. 海外での経験

今回の派遣では、現地実際に訪れるという経験はできなかったが、様々な点において、現地の空気間を感じることができた。とくに、ジョグジャカルタと中継をつなぎ、バーチャル観光を体験する授業があったが、教室内の授業ではわからない、インドネシアの街並みと日本の街並みを比較することができ面白かった。情勢が落ち着き、行けるようになったら是非他の短期留学の制度を使って、実際に東南アジアの国々に行ってみたい。

3. プログラム内容

プログラムの中で、特に時間をかけて取り組んだのは、最終日のプレゼンテーションの準備である。インドネシア大学の学生2人と組み、インドネシアと日本の観光の比較について取り上げ、発表した。準備期間中の会話の中で、日本の観光地や観光資源について聞かれ、自分の行ったことのある都道府県が少ないことや伝統芸能について聞かれてもうまく答えられないことに気が付いた。

また、インドネシア語を日本語をほぼ使わず、インドネシア語を使って教わったということが印象的であった。2週間、集中的にインドネシア語を聞くことで、最終日には簡単な言葉であれば、何を言わんとしているのか理解できるようになった。言語の授業で新しく知らない言語を学ぶことの難しさを実感できたため、日本語を学ぶ学生の意欲の高さを感じた。プログラム全体を通して、新しく学ぶことの楽しさを再認識し、新しく知りたい分野が増えた2週間であった。

4. 進路への影響について

もともと長期留学してみたいという思いを持っていたが、今回の派遣で一つの場所で学ぶだけでは実感できないことが多くあると感じ、よりその思いは強くなった。長期留学では、英語圏での留学のみを対象として考えていたが、新しく言語を学ぶ楽しさを知り、今まだ学んだことのない言語を母語とする地域に行くことも視野に入れることができるようになった。

また、卒業研究として、日本の過疎地域について取り上げることを検討していたが、自分の知っている地域が非常に限られているということを実感し、既に知っている地域で完結するのではなく、幅を広げて知っていこうと思った。